知床科学委員会しんぶん

エゾシカ・ヒグマ ワーキンググループ NO.22

知床半島のエゾシカとヒグマの適切な管理について議論する、エゾシカ・ヒグマワーキンググループ会議が釧路で開催されました（2021年度第1回：7月1日～2日）。

本会議は毎年2回開催されていましたが、今年度はエゾシカとヒグマの管理計画の改定準備のため、計3回開催されます。

必見！TOPIC ヒグマによる被害を防ぐために

2021 年 6 月 27 日、羅臼町で飼い犬がヒグマに襲われる被害が発生しました。

このヒグマは遺留物の DNA の解析結果（※）により、2018 年と 2019 年に羅臼町で飼い犬を襲ったヒグマと同じオス成獣であることが判明しています。

ヒグマのオス成獣は非常に広い範囲を移動します。そのため、斜里町・標津町でもヒグマの出没が多い地域では、飼い犬を屋内で飼育する等の対策が必要です。

※DNA解析は北海道大学大学院獣医学研究院により実施

新たな被害を発生させないためには、食べ物やゴミの適切な管理も重要です！

住宅地周辺のやぶを刈りはらう

生ごみを野外に放置しない

干し魚は丈夫な建物の中か、
ヒグマの手が届かない高さへ

ヒグマを誘引するものは電気柵で囲う

ココ注目！

知床半島ヒグマ管理計画の見直し
～4年間の振り返り～

この計画は知床で人とヒグマが将来にわたって共存することを目的としています（図1）。今年は計画の最終年度（5年目）のため、次の計画に向けて（図2）、過去4年の振り返りを行いました。振り返りでは、目標8つの達成状況を確認しました。その結果、目標の半数以上を達成できないことが分かりました。ただし、各目標に関わる状況を詳しく見ると、進展があったものもありました。

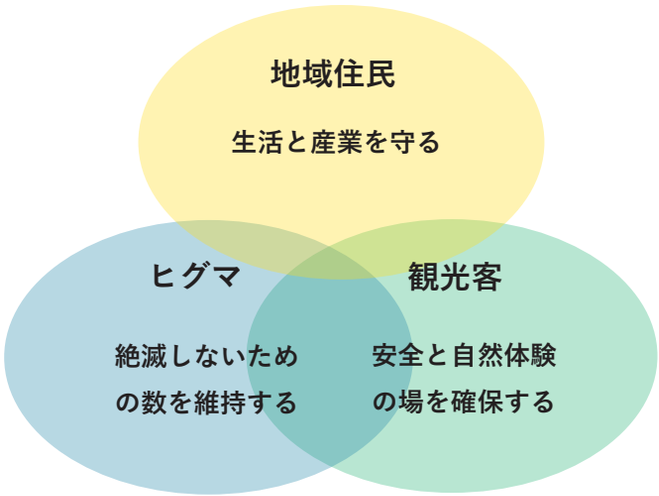

図 1. 知床半島ヒグマ管理計画の目的

例えば、目標⑤「市街地（ゾーン4）への出没件数を半減させる（210件以下）」では、4年間で計354件のヒグマの出没があり、そのうち9割以上を羅臼町が占めていました。市街地が南北に広がる羅臼町は、人の生活エリアとヒグマの生息エリアが長距離で接しています。そのため、市街地付近の出没件数が他の町よりも多い傾向があります。近年の羅臼町では、ヒグマの出没や長時間の潜伏を防ぐため、町内会等が力を合わせて、住宅地周辺の草刈りが行われるようになりました（写真1）。その結果、住宅地周辺におけるヒグマとの至近距離での遭遇を回避することができ、地域の安全性が高まりました。

一方で、目標④「地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例を半減させる（10件以下）」では、4年間で計37件の危険事例が発生しました。発生した危険事例の中には、斜里町や羅臼町における各家庭の干し魚や水産加工場から出た魚の残滓にヒグマが餌付いた事例も一部にあり、人の注意によっては発生を防げたものがありました（写真2）。過去にも同様の事例が繰り返し起きており、抜本的な解決策の必要性が有識者から指摘されています。

人とヒグマの間にはいまだ多くの課題を抱えていますが、これらの課題を一つずつ解決していき、人とヒグマが共存できる社会を目指していきたいものです。

次号では観光客に対する取り組みも紹介する予定です。

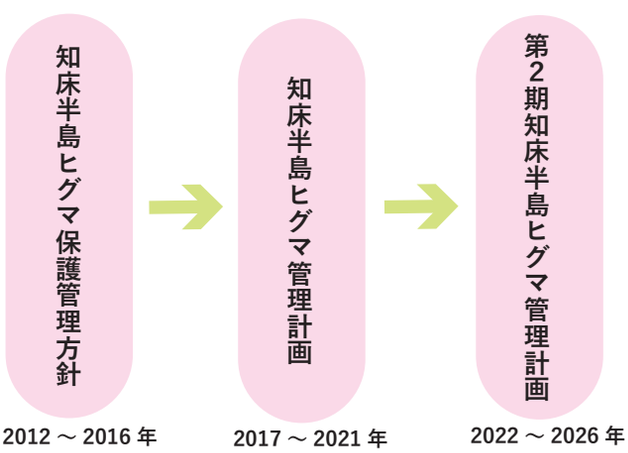

図 2. 知床半島ヒグマ管理計画
改定の流れ

写真1. 町内会等による草刈り
（羅臼町における事例）

写真2. ヒグマが侵入した干し魚小屋
（赤丸がヒグマ侵入箇所）

◆ヒグマを見たら下記までご連絡をお願い致します。
斜里町：0152-24-2775（知床財団 / 日中）
090-3778-4308（知床財団 / 夜間・早朝）
羅臼町：0153-87-2126（羅臼町役場産業創生課）
標津町：0153-85-7244（標津町役場農林課）

●会議資料や議事録は知床データセンター（http://dc.shiretoko-whc.com/）で公開しています。

■問合せ先
環境省釧路自然環境事務所
〒085-8639
北海道釧路市幸町10-3 釧路地方合同庁舎4階
TEL 0154-32-7500 / FAX 0154-32-7575

発行：環境省 / 制作：公益財団法人 知床財団 / 発行月：2021 年 8 月